

道としての 瀬戸内海

北前船 日本遺産認定記念

2019年10月17日(木)～11月24日(日)

関連行事

記念講演会「中世瀬戸内海と室津の船頭」

日時 11月17日(日) 14時～

* 関西文化の日で無料。先着50名

講師 山内 譲 (元松山大学教授)

会場 室津海駅館

展示解説 ※室津海駅館よりスタートします。

日時 10月26日(土) 14時～

講師 柏山 泰訓 (室津海駅館・民俗館専門委員会委員長)

室乃津めぐり

日時 11月23日(土・祝) 10時～

集合 室津海駅館

内容 「御津めて室津観光ガイド」による日本遺産の構成文化財等を巡ります。
要申込。先着30名(無料)



問い合わせ
申込み

たつの市立
室津海駅館

〒671-1332 兵庫県たつの市御津町室津457
TEL: 079-324-0595

★開館時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
★休館日 月曜日、ただし月曜日が休日の場合はその翌日・翌々日
★入館料 各館 高校生以上: 200円 小中学生 100円
共通券 高校生以上: 300円 小中学生 150円



道としての瀬戸内海



遠眼鏡
神戸大学海事博物館蔵



従赤間関浪華城海上略図 神戸大学海事博物館蔵



松前より蝦夷へ航路図 龍野歴史文化資料館蔵

瀬戸内から蝦夷へ！

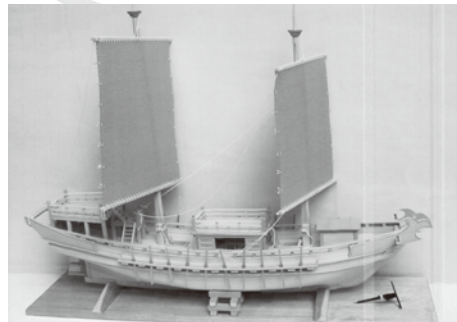
古代から近代 瀬戸内を彩った船！

瀬戸内海は、本州、九州、四国に囲まれた、日本最大の内海です。瀬戸といわれるように、大小多くの島々が点在する多島海でもあります。その風景美により、昭和9年(1934)に日本最初の国立公園の一つに指定された海となっています。

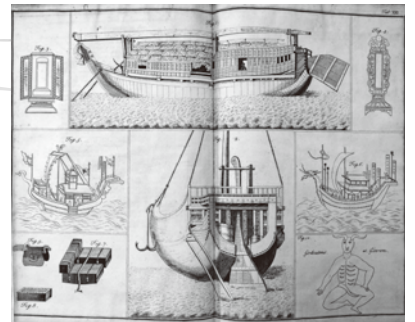
その瀬戸内海が、日本の歴史において意味を持つのは、「海の回廊」としての役割です。古代には、平城京や平安京などと異国を結ぶ道でした。近世には、天下の台所大坂へと、北前船をはじめ全国各地から多くの廻船がこの海を渡りました。島国日本では、海は障害ではなく交通路であり、瀬戸内海はまさに日本の大動脈でした。

海の道を往来するには船が必要となります。瀬戸内海は、有史以来、さまざまな船が航行しました。丸太をえぐった割り船もあれば、千石も積載できる弁財船もあれば、異国の船もありました。これらの船の寄港地として瀬戸内海沿岸各地に港町が発達しています。室津(たつの市)はその主要な港の一つです。

本展では、道としての瀬戸内海の歴史と、古代より港町として栄えた室津を紹介します。



遣唐使船 関谷利巳制作

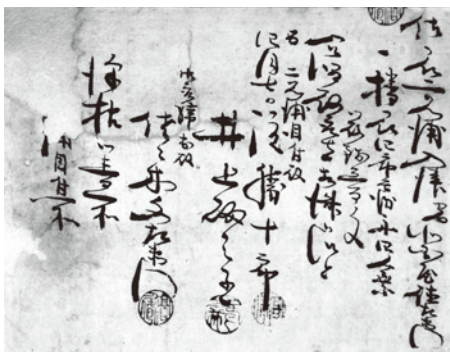


『日本誌』ケンペル著 船の図



船賃銀定法(赤穂市指定文化財)部分 個人蔵

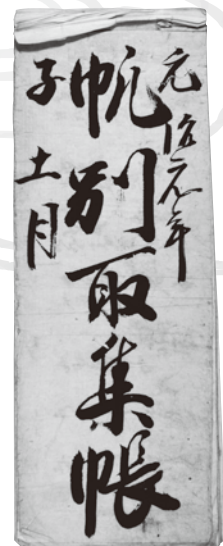
北前船と 播磨の港



室津の廻船問屋「嶋屋」の船が
佐渡国二見浦に入津 室津海駅館蔵



明治39年の飾磨港(個人蔵)



帆別取集帳(高砂市 工業家文書) 個人蔵